経営比較分析表（令和4年度決算）

兵庫県　神戸市

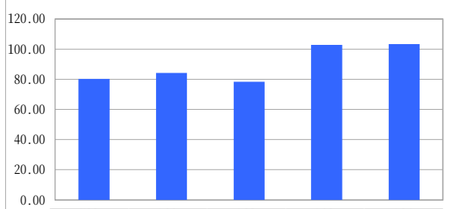
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	該当数値なし	0.85	90.88	1,760

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
1,510,917	557.05	2,712.35
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
12,866	4.57	2,815.32

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

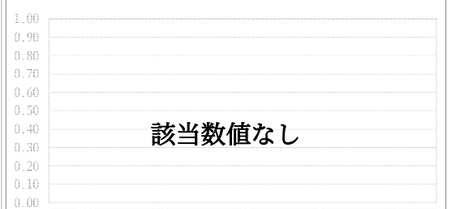
1．経営の健全性・効率性

①収益的収支比率(%)



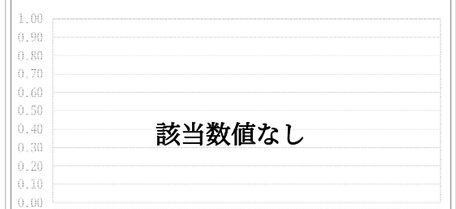
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	80.35	84.24	78.52	102.86	103.49
平均値					

②累積欠損金比率(%)



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値					
平均値					

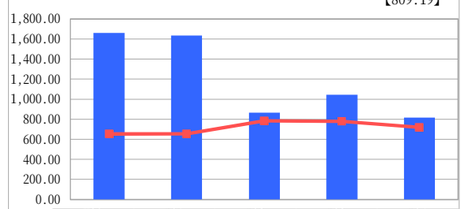
③流動比率(%)



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値					
平均値					

④企業債残高対事業規模比率(%)

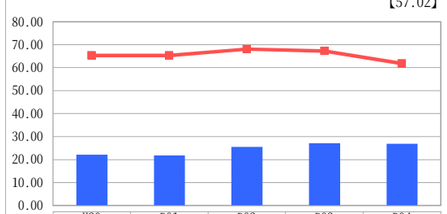
【809.19】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	1,663.20	1,635.59	865.68	1,046.66	816.32
平均値	654.92	654.71	783.80	778.81	718.49

⑤経費回収率(%)

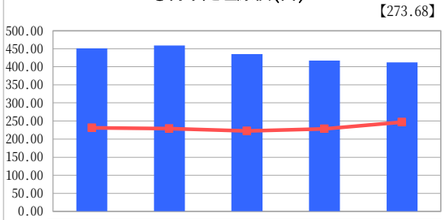
【57.02】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	22.09	21.81	25.52	27.03	26.88
平均値	65.39	65.37	68.11	67.23	61.82

⑥汚水処理原価(円)

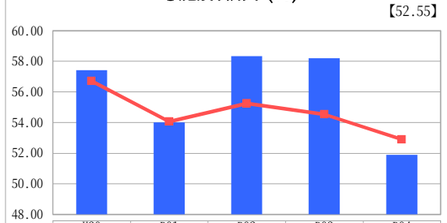
【273.68】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	451.49	459.13	435.77	417.55	412.78
平均値	230.88	228.99	222.41	228.21	246.90

⑦施設利用率(%)

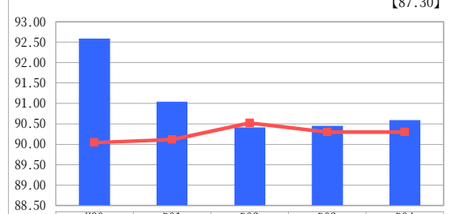
【52.55】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	57.43	54.01	58.34	58.21	51.90
平均値	56.72	54.06	55.26	54.54	52.90

⑧水洗化率(%)

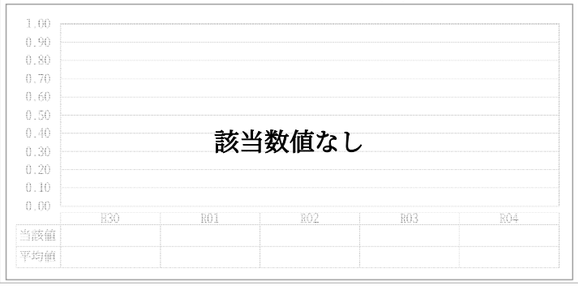
【87.30】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	92.59	91.04	90.41	90.45	90.59
平均値	90.04	90.11	90.52	90.30	90.30

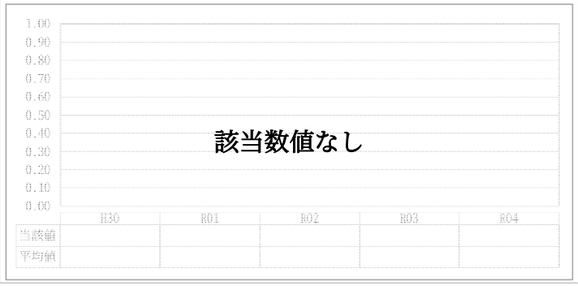
2．老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値					
平均値					

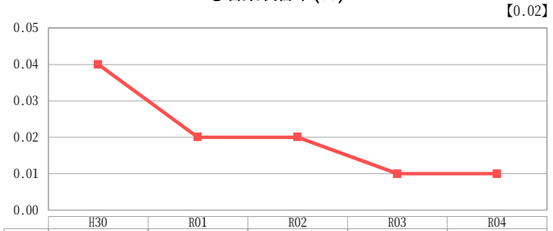
②管渠老朽化率(%)



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値					
平均値					

③管渠改善率(%)

【0.02】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.04	0.02	0.02	0.01	0.01

※　法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

分析欄

1．経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
　収益的収支比率が100%を割っているのは、平成５年から平成９年にかけて施設を集中整備した際の地方債が償還期限を迎えていることが大きな影響を与えている。平成20年度で施設の整備は終了しているので、平成29年度には、地方債の償還のピークを迎え、収益的収支比率は平成30年度以降は改善してきている。また平成30年度は平成24年度分、令和元年度は平成25～30年度分の消費税の還付金があり収益が大きくなっていたが、令和２年度以降は、発生しない。令和４年度は他会計からの繰入金が増えたため、収益的収支比率が増加した。
④企業債残高対事業規模比較
　神戸市の農業集落排水処理施設は、地形的特徴として起伏が多いため、汚水を処理場に送るための中継ポンプ場が多く必要である。また、処理水は最終的に瀬戸内海に放流されるため、水質基準が通常よりも厳しい。このため神戸市の処理場の設計排水基準も厳しく、高額の初期費用が必要となり、企業債残高対事業規模比較が高くなっている。しかし、企業債の償還が進み令和2年度以降は平均値に近づいている。
⑤経費回収率
　神戸市では「市内同一サービス・同一料金」を原則としており、農業集落排水の使用料は、公共下水道の使用料と同額としている。しかし、農業集落排水は公共下水道に比べて、規模も格段に小さく非効率であり、施設の維持管理に必要な使用料収入を得られていない。このため、経費回収率は低くならざるを得ず、不足分は一般会計からの繰入金を充てている。
⑥汚水処理原価
　中継ポンプ場のメンテナンスや、水質の確保のための処理場運転に電力費などがかさむため、汚水処理原価が類似団体平均より高くなっている。
⑦施設利用率
　施設利用率は概ね類似団体平均と同水準で、施設の利用状況は比較的良好であり、規模も適切であると考えられる。
⑧水洗化率
　水洗化率については類似団体平均よりは高くなっている。

2．老朽化の状況について

管渠の多くは、整備から30年未満で耐用年数を迎えておらず、大きな不具合も出ていないため、管渠の更新は当面は必要ない。ただ人孔については漏水が見られる場合もあるため有収率が低い地区を中心に調査を行い、随時改修を行う。今後は処理場を含めたライフサイクルコストを低減するため令和元年度に策定した最適整備構想に基づき、適切な機能保全対策を講じていく。

全体総括

　神戸市の農業集落排水は、地形的要因に加え、使用料については「市内同一サービス・同一料金」を原則としており、公共下水道の使用料と同額としているため、経常的な費用を収益でまかなうことができていない。また、農業集落排水事業は一般会計からの繰入金に依存しており、(1)使用料滞納者に対する対策、(2)水洗化の促進を行い収益の確保の取り組みを引き続き推進する必要がある。また、今後多くの施設が整備後30年を迎え、機器の更新等が必要になってくるので、計画的に修繕を行い機能維持を図ると共に、処理区の統廃合を積極的に進めていく。
　農業集落排水事業は、農村環境改善、農業用排水・公共用水の水質改善に必要不可欠な施設であるため、企業会計化の適用をすすめ、経営基盤の強化を行うとともに、引き続き適正な維持管理に努めてまいりたい。